

「ハイブリッド型」としてのアメリカ？

ーグローバル・ポピュリズムのなかの現代アメリカ政治ー

鈴木港斗

目的：「ポピュリズムをめぐるグローバルな見取り図を描いたうえで、トランプとサンダースの出現したアメリカの『立ち位置』を明らかにしたい」

○「二つのポピュリズム」の共存（13～14 頁）

1. 「抑圧型」のポピュリズム→「右派ポピュリズム」、「移民排除に傾くヨーロッパのポピュリズム」

・ドナルド・トランプの運動に近い

2. 「開放型」のポピュリズム→「左派ポピュリズム」、「格差の是正を重視するラテンアメリカ」のポピュリズム

・「バーニー・サンダースを支えた運動」に近い

アメリカ大統領選挙→「共和党と民主党で、合わせ鏡のようにポピュリズム的動きが出現し、『エスタブリッシュメント』に対抗」した

○格差の残るラテンアメリカ（14 頁）

背景：「特権層が大土地所有者や鉱山所有者として社会経済的に圧倒的な優位を占め、政治を独占する状態」が続き「アンダークラス」に属する人々が増加

※アンダークラス…「従来の『労働者階級』のさらに下に位置」し、「既成政党や労働組合によって代表されづらい」

→「未組織労働者や貧困層を基盤とするポピュリズムの多くは、『特権層』の優位に挑戦する社会経済上の改革国家による介入を進めて再分配を求める、左派的傾向が強い」

○西欧と EU（14～15 頁）

1. 西欧

社会変化が進み、「従来の政党や団体が『代表性』を体現しえなくなった」21 世紀において、人々が政治に不信感を持った

→「国家による再分配の『受益者層』」を指摘し、「『特権層』と『共謀』関係にあるとされる既成の政党や団体、メディア」を批判するポピュリズム政党が支持された

2. EU

ユーロ危機

→「ヨーロッパレベルの『富と権利の分配システム』のもとで、『他者』への一方的な資源移転がなされた」と解釈した市民の政治不信に拍車をかけた

○「新大陸」の「先進国」として（15～16 頁）

「アメリカはどこに位置づけられるのだろうか」

→「移民を社会的・経済的な負担として一方的に断罪し、それをもって国内の雇用と福祉を守る」というトランプの主張は、「先進国型のポピュリズムの一つの表れ」といえる

⇔アメリカはラテンアメリカと同じ新大陸の国であり「自己救済をまずは優先する政治文化」において格差が残存、拡大している

→「その是正を目指し、既成の政治エリートに正面から批判を突き付ける」サンダースの主張が支持を集めたことは、アメリカにおけるポピュリズムの動きが、途上国型のポピュリズムの形をとりえることを示した

結論：「『新大陸』かつ『先進国』という特徴を持つアメリカ」は「『右の下』と『左の下』からなる左右のポピュリズム」が生起する『ハイブリッド型』の国だといえる

○三類型と所得格差の実際（16～17 頁）

1. 西欧の右派ポピュリズム優位型の諸国

→「ジニ係数の最も低い部類」に属する（平均 0.29）

2. ラテンアメリカ

→ジニ係数が高い部類に属する（平均 0.47）

3. アメリカ

→1と2の間にある（0.41）

※ジニ係数…所得格差を示す。高いほど格差が大きく、低いほど格差が小さい。